

株主レポート

まるべに

2026 SUMMER No.140



Marubeni

MESSAGE FROM CEO

社長メッセージ

過去最高益の更新と時価総額10兆円の達成 そして世界100位圏内の高みへ

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は2026年5月1日に2025年度連結決算を公表いたしました。2025年度の純利益は前年度比409億円増益の5,439億円となり、過去最高益を更新いたしました。非資源分野の実態純利益(※1)が過去最高となったことに加え、資源分野も市況上昇に伴い増益となりました。基礎営業キャッシュ・フロー(※2)は5,751億円のプラスとなりました。これを受け、2025年度の1株当たり年間配当金を107.5円といたしました。

2026年度の通期見通しにつきましては、純利益を前年度比361億円増益の5,800億円とし、2年連続での過去最高益更新を目指しております。また、実態純利益および基礎営業キャッシュ・フローの双方においても過去最高を更新し、前年度対比で二桁成長を見込んでいます。株主還元につきましては、2026年度の1株当たり年間配当金予想を前年度から7.5円増配の115円といたします。加えて、450億円の自己株式取得を決定いたしました。引き続き、基礎営業キャッシュ・フローの最大化と投資の回収促進によりキャッシュイン最大化を追求し、創出したキャッシュを成長投資に優先的に配分するとともに、株主還元の更なる強化を図ってまいります。

現在進行中の中期経営戦略「GC2027」におきましては、「勝ち筋」に経営資源を集中させ、2030年度に向けて非資源分野のROIC10%以上を目指しております。その実現に向け、成長領域であり高付加価値かつ拡張性を備えた「戦略プラットフォーム型事業」の核化・大型化を推進し、事業ポートフォリオの強化を着実に進めてまいります。こうした成長戦略を市場の皆様からもご評価いただき、当社が目標として掲げていた「時価総額10兆円超」は、2026年2月に達成することができました。

丸紅グループの在り姿である「Global crossvalue platform」の追求とは、世界最善との掛け合わせであり、自らを常に新しくしていくことです。今後も世界最善を謙虚に学び、「規律ある資本配分」と「次の世代への仕掛け」を継続していくことで、世界の高みに向けた着実な成長を続け、「時価総額世界100位圏内」を長期的に目指してまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(※1) 実態純利益：純利益から一過性要因を控除

(※2) 基礎営業キャッシュ・フロー：営業キャッシュ・フローから営業資金の増減等を控除

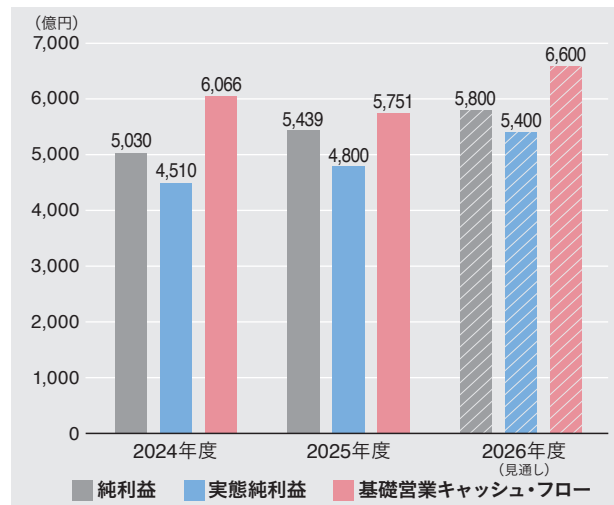
取締役 代表執行役社長 大本晶之

FINANCIAL HIGHLIGHT

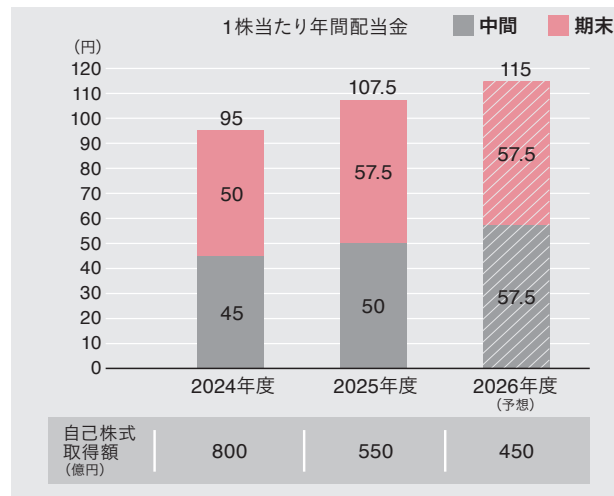
財務ハイライト

2025年度の純利益は過去最高となる5,439億円(前年度比+409億円)となり、1株当たり年間配当金は107.5円といたしました(中間配当金50円、期末配当金57.5円)。2026年度については純利益見通し5,800億円、1株当たり年間配当金予想を115円としております。

純利益・実態純利益・基礎営業キャッシュ・フロー



株主還元



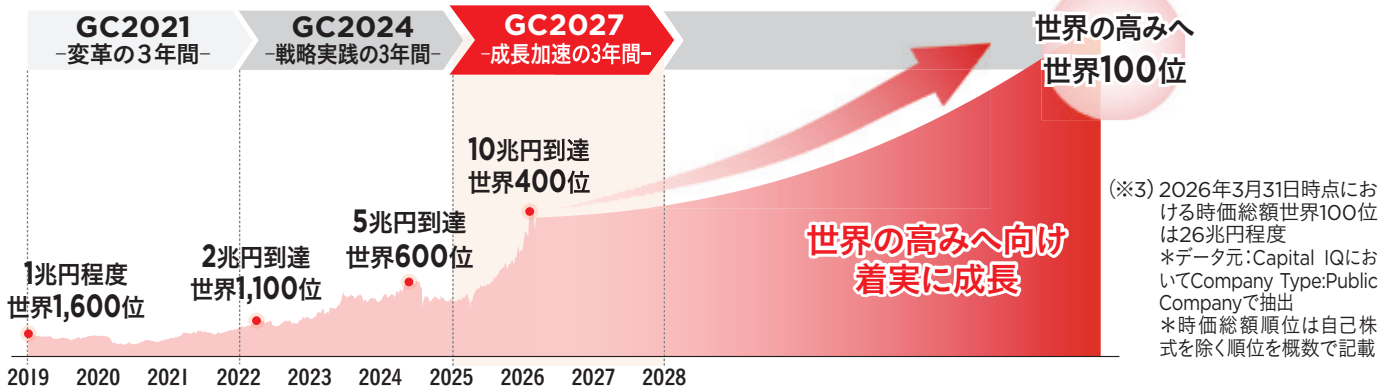
※純利益：親会社の所有者に帰属する当期利益

※実態純利益：純利益から一過性要因を控除した概数

※2026年度見通し：2026年5月1日に公表した通期見通し

時価総額世界100位圏内を長期的に目指す

当社グループは、GC2027で掲げた時価総額目標10兆円を2026年2月に達成し、近年、グローバル市場における相対的なポジションを着実に高めてまいりました。当社グループの在り姿であるGlobal crossvalue platformの追求とは、世界最善との掛け合わせにより、自らを常に新しくしていくことです。世界最善を謙虚に学びながら、「規律ある資本配分」×「オペレーショナルエクセレンス・改善」×「次の世代への仕掛け=永続成長力向上」を継続していくことで、世界の高みに向けた着実な成長を続け、時価総額で世界100位圏内(※3)を長期的に目指してまいります。



戦略プラットフォーム型事業とは

当社は「成長領域」・「高付加価値」・「拡張性」という3つの要素を兼ね備えた事業を「戦略プラットフォーム型事業」と位置付け、市場成長性の高い事業領域において、付加価値の高い商品やサービスを拡充するとともに、地域や領域拡張等により収益性と拡張性を同時に追求します。また、核となるプラットフォームを軸に、有機的な成長に加えてM&Aを通じて成長を目指していきます。

成長領域

×

高付加価値

×

拡張性

核となる戦略プラットフォーム型事業

【主な対象事業会社】



農業資材
販売事業

Helena Agri-Enterprises、
Adubos Real



北米
モビリティ
事業

Nowlake Technology、
Wheels



電力卸売・
小売事業

SmartestEnergy、
丸紅新電力



航空機
アフターマーケット
アセットトレード
事業

Magellan Aviation Group、
DASI



食品
マーケティング
製造事業

Gemsa Enterprises、
Euroma Holding



IT・デジタル
ソリューション
事業

丸紅I-DIGIOホールディングス、
ドルビックスコンサルティング



医薬品
販売事業

丸紅ファーマシューティカルズ、
Phillips

Scope-事業紹介動画
世界各地で展開している
丸紅グループのビジネス
を紹介しております。▶



丸紅ギャラリー 第15回企画展

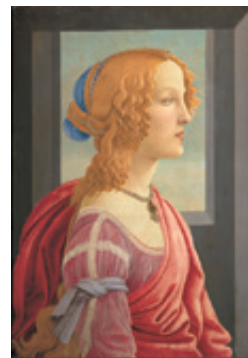
日伊修好通商条約締結160周年 & シモネッタ歿後550年記念特別展

～イタリアと日本の文芸作品に描かれた美しきシモネッタ～

開催期間: 2026年8月6日(木)～9月30日(水)

駐日イタリア大使館協力の下、日伊修好通商条約締結160周年ならびにシモネッタ歿後550年を記念する特別展を開催します。ポッティチェリの時代の絵画は、描かれたものが単に目に見える世界を捉えているだけではなく、目に見えない存在を垣間見るための道具立てとしても機能していました。ポッティチェリの作品において「美しきシモネッタ」はそうした目に見えないものを人々に垣間見せる役割としての存在でした。

本展は、イタリアの詩人ポリツィアーノによるシモネッタが登場する『馬上槍試合のための詩』と日本の小説家辻邦生による『春の戴冠』という両国の二大文芸作品ならびにポッティチェリの傑作《春》に焦点を当て、そこに描かれた思想と目に見えない存在を浮き彫りにしようと試みるものです。



《美しきシモネッタ》

丸紅ギャラリー概要

(住 所) 東京都千代田区大手町一丁目4番2号 丸紅ビル3階
(開館時間) 10:00～17:00(受付終了:16:30)
(休 館 日) 日曜日・祝日、年末年始
(そ の 他) 常設展はございません。入館料等、その他概要については丸紅ギャラリーHPをご覧ください。

会社概要 (2026年3月31日現在)

会社名	丸紅株式会社 (英文: Marubeni Corporation)
創業	1858年5月
設立	1949年12月1日
資本金	263,711百万円



丸紅公式HP



統合報告書サイト



丸紅公式SNS



丸紅ギャラリー

2026年1月号



丸紅グループ広報誌「M-SPIRIT」

2026年4月号



株式事務に関するご案内

- 未払配当金のお支払い
みずほ信託銀行・みずほ銀行
- 住所変更等の各種お問い合わせ先

みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
☎0120-288-324
(電子提供制度専用ダイヤル) ☎0120-524-324

※証券会社に口座をお持ちの株主様は、口座を開設されている証券会社にお問い合わせください。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金支払株主確定日	毎年3月31日
中間配当金支払株主確定日	毎年9月30日
株主名簿管理人および特別口座管理機関	みずほ信託銀行株式会社 〒100-8241 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店 証券代行部 〒100-8241 東京都千代田区丸の内一丁目3番3号
単元株式数	100株
上場取引所	東京
公告方法	電子公告 (当社の電子公告は、当社ウェブサイトの以下のアドレスに掲載します。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。) https://www.marubeni.com/jp/koukoku.html
証券コード	8002
ウェブサイト	https://www.marubeni.com/jp/

株主レポート まるべに No.140 (年2回発行) 2026年6月19日発行
発行/丸紅株式会社 ステークホルダーエンゲージメント部 発行人/石田哲也
〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

将来見通しに関する注意事項: 本紙に掲載されている予測や将来の見通しに関する記述等は、本紙の発行日現在において入手可能な情報やそれをもとにした当社の仮定・判断に基づくものであり、将来の業績を保証するものではありません。よって、実際の業績、結果、パフォーマンス等は、経済動向、市場価格の状況、為替の変動等、様々なリスクや不確定要素により大きく異なる結果となる可能性があります。当社は、本紙の情報の利用により生じたいかなる損害に関し、一切責任を負うものではありません。また、当社は、本紙に掲載されている予測や将来の見通しに関する記述等についてアップデートして公表する義務を負うものではありません。



環境保全のため、環境に配慮した植物油インキで印刷しています。